



令和8年度(第81回)文化庁芸術祭主催公演・昭和100年記念公演
新国立劇場 2026/2027シーズン 演劇

巨匠とマルガリータ

上村聡史芸術監督就任の第一作！
悪魔の舞踏会、しゃべる猫、そして不滅の愛と芸術賛歌——
20世紀最高の奇想小説が、スペクタクル狂騒劇として蘇る！



(上段 左から)成河、花乃まりあ、篠井英介 (下段 左から)松島庄汰、菅原永二、大鷹明良



翻訳
小田島創志



演出
上村聡史

2026年11月7日(土)～23日(月・祝) 新国立劇場 中劇場

【写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ】

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 杉田亜樹
TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737
E-mail: sugita_a8863@nntt.jac.go.jp
〒151-0071 東京都渋谷区本町 1-1-1



作品について

2026 年 9 月より新国立劇場 演劇芸術監督に新たに就任した上村聡史。そのシーズンオープニングを飾る作品として、ミハイル・ブルガーコフ原作の『巨匠とマルガリータ』を、上村自身の演出により、11 月 7 日より中劇場にて上演いたします。

『巨匠とマルガリータ』は、1928 年～40 年にかけてブルガーコフにより執筆された小説です。当時はソ連当局によって体制批判とみなされ、検閲版としてようやく出版にこぎつけたのは作家の死後 26 年が経った 66 年、さらに完全版が出版されたのは 73 年となります。幻想と現実、そして時代を巡り、人間の善悪や愛、芸術の不滅性を奇想天外に描いたこの作品は、その後映画、テレビドラマ、舞台化もされ、今日では 20 世紀文学の最高傑作と呼ばれるに至ります。

上村がブルガーコフ作品の演出を手掛けるのは、第 32 回読売演劇大賞 優秀作品賞を受賞した『白衛軍 The White Guard』(2024 年上演)に次いで二度目となります。

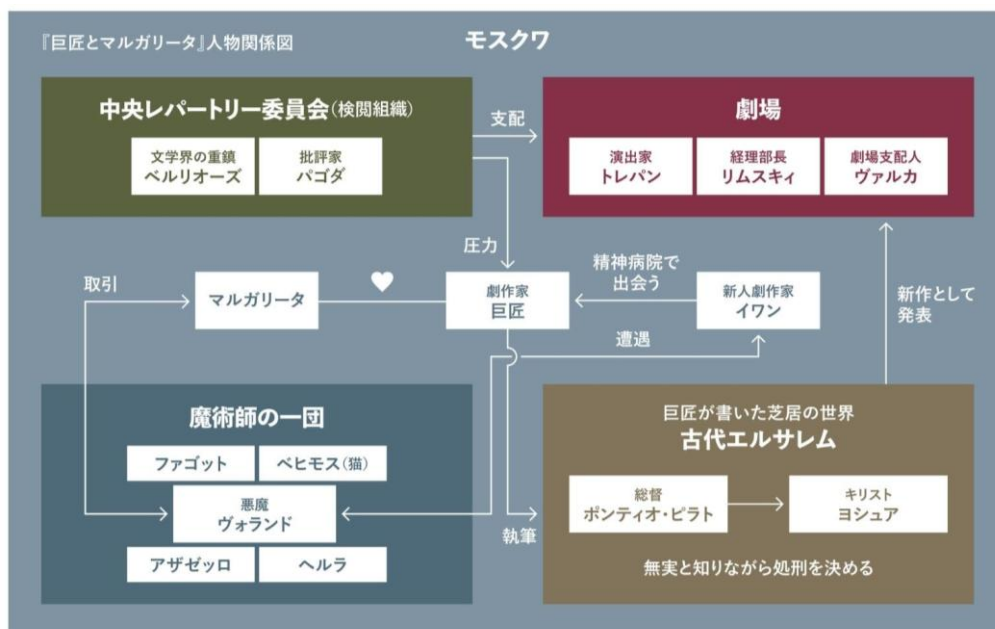
本公演では、英国のナショナル・シアターなどで活躍したエドワード・ケンプによる戯曲版(2004 年初演)を採用。主人公の「巨匠」を小説家から劇作家に翻案したバージョンで上演いたします。

作品が痛烈な批判を受け、精神病院に身を寄せる劇作家、通称「巨匠」を演じるのは成河。その「巨匠」を愛し、彼を救うためなら悪魔に魂を売ることも辞さない女性・マルガリータ役に花乃まりあ。モスクワに突如現れ、人間の本性や社会の欺瞞を暴き出す悪魔ヴォランド役に篠井英介。悪魔の一味を追ううちに狂人とみなされ、精神病院に隔離されてしまう若き作家イワン役に松島庄汰。ヴォランドの付き人であるファゴット役に菅原永二。そして、「巨匠」が書いた戯曲の主人公であり、古代エルサレムを統治する総督ポンティオ・ピラト役を大鷹明良が演じます。

本作に登場する「原稿は燃えない」という一節には、物理的に原稿が燃やされても、そこに込められた思想や魂は決して消滅しないという、ブルガーコフ自身の信念と希望が込められています。芸術の根源とは、創造とは何かを見つめなおし、今を生きる勇気へとつながる力強い本作を、新芸術監督のシーズンオープニングを飾るにふさわしいスケールでお届けいたします。ぜひご期待ください。

あらすじ

舞台は 1930 年代のモスクワ。文学界は官僚主義と検閲にがんじがらめ。そんな中、劇作家である、通称「巨匠」は、キリストの処刑を決めた総督・ピラトを題材にした野心的な作品を書き上げる。しかし、その作品は体制に受け入れられず、激しい批判にさらされ、絶望の淵に突き落とされた結果、彼は自分の原稿を焼き払い、精神病院へと姿を消してしまう。一方、巨匠には愛する女性、マルガリータがいた。彼女は美しく聡明で、巨匠の才能を誰よりも信じていた。巨匠がいなくなり、絶望的な日々を送るマルガリータの前に、突如として奇妙な外国人ヴォランドとその取り巻きたちが現れる。ヴォランドはモスクワの街で様々な騒動を引き起こしながら、市民たちの本性を試そうとしていた。マルガリータは、唯一の願い“愛する巨匠と再び会うこと”を叶えてもらうためにヴォランドの取引に応じる。ヴォランドの目的、巨匠の運命、そしてマルガリータの愛の行方は一体どうなるのか？



スタッフプロフィール

【原作】 ミハイル・ブルガーコフ Mikhail BULGAKOV

1891 年～1940 年。ウクライナの首都、キーウ出身の小説家、劇作家。幼少期から内外の文学に親しみ、その体験は彼の後半生に多大な影響を及ぼした。キーウ大学で医学を修め、医師として開業。18 年、ロシア革命に伴う内戦では軍医として参加。戦後、文学で身を立てる決意をし、モスクワへ移住。ロシアの文学雑誌に載せた短編小説が高く評価され、作家として注目される。しかし、彼の作品には、根底に革命政府への批判が込められていたため、たびたび出版・上演禁止に晒される。弾圧の中でも精力的な創作活動を行ったが、病魔のため、48 歳の若さで世を去った。それらの作品群はスターリン死後、54 年のソヴィエト作家同盟第二回大会で正式に名誉回復され、現在では彼の作品の出版、上演は世界的に行われている。

【翻案】 エドワード・ケンプ Edward KEMP

イギリス出身の劇作家、演出家、ドラマトルク、翻訳家。若くして劇作家として頭角を現し、15 歳で書いた戯曲『The Iron And The Oak』はテキサコノナショナル・ユース・シアター劇作コンクールで最も有望な劇作家賞を受賞。その後、チチェスター・フェスティバル・シアターや、ナショナル・シアターで常任演出家を務めるなど、イギリス演劇界の中心で活躍。2008 年から 21 年までは、王立演劇学校 (RADA) のディレクターを務め、発展に尽力。現在は、イギリスで最も古い文学慈善団体であるロイヤル・リテラリー・ファンドの最高責任者 (Chief Executive) として活動中。

【翻訳】 小田島創志 ODASHIMA Soshi



1991 年生まれ。武蔵大学、共立女子大学ほか非常勤講師。演劇雑誌「悲劇喜劇」編集協力。専門はハロルド・ピンター、トム・ストッパードを中心とした現代イギリス演劇。これまでの翻訳作品に『ロミオとジュリエット』『リチャード三世』『嵐 THE TEMPEST』『ドクターズジレンマ』『BIRTHDAY』『ULSTER AMERICAN』『ブレイキング・ザ・コード』『ラビット・ホール』『聖なる炎』『管理人／THE CARETAKER』『HEISENBERG (ハイゼンベルク)』『ポルノグラフィ』『受取人不明 ADDRESS UNKNOWN』など。一川 華との共訳作品に『ケイン & アベル』。ミュージカルの翻訳・訳詞作品に『A Year with Frog and Toad ～がまくんとかえるくん』『スライス・オブ・サタデーナイト』『回転木馬』。新国立劇場では、『ガールズ & ボイズ』『スリー・キングダムス Three Kingdoms』『白衛軍 The White Guard』『エンジェルス・イン・アメリカ』『アンチポデス』『タージマハルの衛兵』を翻訳。

【演出】 上村聡史 KAMIMURA Satoshi



1979 年、東京生まれ。フリーの演出家として活動。2026 年 9 月より新国立劇場演劇芸術監督。09 年、文化庁新進芸術家海外留学制度において 1 年間イギリス・ドイツに留学。第 22 回・第 29 回読売演劇大賞最優秀演出家賞、第 17 回千田是也賞、第 56 回紀伊國屋演劇賞を受賞。近年の主な演出作品に、『みんな鳥になって』『グッバイ、レーニン！』『夜は昼の母』『My Boy Jack』『野鴨 -Vildanden-』『ガラスの動物園』『森 フォレ』『Oslo (オスロ)』など。新国立劇場では、『スリー・キングダムス Three Kingdoms』『白衛軍 The White Guard』『デカローグ』『エンジェルス・イン・アメリカ』『斬られの仙太』『オレスティア』『城塞』『アルトナの幽閉者』を演出。

出演者プロフィール

成河 Songha 巨匠



大学時代に演劇を始め、北区つかこうへい劇団などを経て舞台を中心に活動。平成 20 年度文化庁芸術祭演劇部門新人賞、『BLUE/ORANGE』『春琴』にて第 18 回読売演劇大賞優秀男優賞、『ピロマン』『ライオン』にて第 32 回読売演劇大賞優秀男優賞、『EDGES-エッジズ-2022』『建築家とアッシリア皇帝』にて第 57 回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。

【主な舞台】『ニコラ・テスラ～エジソンが恐れた孤高の天才～』『ハムレット』『ナルキッソスの怒り』『冒険者たち～JOURNEY TO THE WEST～』『帰ってきた冒険者たち～闇に落ちたカナガワを救え！～』『チ。—地球の運動について—』『ほぐすとからむ』『W3 ワンダースリー』『イリュージョニスト』『松本清張 点と線』『未来少年コナン』『テラヤマキャバレー』『ねじまき鳥クロニクル』『桜の園』『ある馬の物語』など。新国立劇場では『ピロマン』『タージマハルの衛兵』『アジャ温泉』『サロメ』『夏の夜の夢』に出演。



花乃まりあ KANO Maria

マルガリータ

2010 年宝塚歌劇団入団。2014 年花組トップ娘役就任。2017 年宝塚歌劇団を退団。退団後は俳優・レポーターとして幅広く活動。

【主な舞台】『愛の不時着』『レッドブック～私は私を語るひと～』『ロマンティック・アノニマス』『すべての幸運を手にした男』『ルネサンス音楽劇『ハムレット』『コレット』『フランケンシュタイン』『SHINE SHOW!』『ザ・ミュージック・マン』『イヴの時間』『8人の女たち』『The Parlor』『恋のすべて』『The Last 5 Years』『フロズン・ビーチ』『二十日鼠と人間』など。



松島庄汰 MATSUSHIMA Shota

イワン

2007年「アミューズ30周年全国オーディション」で準グランプリを受賞し、俳優としての活動を開始。これまでの主な出演に、映画『クジラのいた夏』『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』『ソフトボーイ』、ドラマ『ベイビーステップ』『ステップファザー・ステップ』『花ざかりの君たちへ～イケメン☆パラダイス～2011』などがある。

【主な舞台】『呪怨 THE LIVE-再念-』『近松心中物語』『昭和から騒ぎ』『Silent Sky』『笑わせんな』『橋からの眺め』『ランボルギーニに乗って』『富美男と夕莉子』『染、色』『ゲルニカ』『99才まで生きたあかんぼう』『里見八犬伝』など。



菅原永二 SUGAWARA Eiji

ファゴット 他

大学在学中に演劇を始め、2011年まで劇団「猫のホテル」に所属。退団後は舞台を中心に、映画、ドラマ、ナレーションなど幅広く活動する。これまでの出演に、CM「R-1」ナレーション、ドラマ『しあわせは食べて寝て待って』『不適切にもほどがある！』『ハヤブサ消防団』『離婚しようよ』、映画『零落』『20歳のソウル』などがある。

【主な舞台】『カッコーの巣の上で』『冒険者たち～JOURNEY TO THE WEST～』『帰ってきた冒険者たち～闇に落ちたカナガワを救え！～』『最後のドン・キホーテ THE LAST REMAKE of Don Quixote』『ベイジルタウンの女神』『学芸員 鎌田志万とダ・ヴィンチ・ノート』『ロボット』『ふくすけ2024ー歌舞伎町黙示録ー』『ガラパゴスパコス～進化してんのかしてないのか～』『アンナ・カレーニナ』『FORTUNE』など。新国立劇場では『フリック』に出演。



大鷹明良 OTAKA Akira

ポンティオ・ピラト 他

1976年、演劇舎螳螂の立ち上げに参加。以降、舞台を中心に活動。『兄おとうと』をはじめ、多くの井上ひさし作品に出演。近年の主な出演にドラマ『No Activity』シーズン2、『笑うマトリョーシカ』『ドラフトキング』、『理想的本箱』（ナレーション）、映画『若き見知らぬ者たち』『仕掛人・藤枝梅安』などがある。

【主な舞台】『心中天の網島』『るつぼ The Crucible』『Downstate』『きらめく星座』『しばしとてこそ』『嫌われる勇気』『After Life』『野鴨-Vildanden-』『彼女を笑う人がいても』『森 フォレ』『モダンボーイズ』『HAMLET-ハムレット-』『チック』『春のめざめ』『CHIMERICA チャイメリカ』『民衆の敵』など。新国立劇場では『白衛軍 The White Guard』『トロイ戦争は起こらない』『あわれ彼女は娼婦』『東海道四谷怪談』『エドワード二世』『夢の裂け目』『山の巨人たち』『氷屋来たる』『箱根強羅ホテル』『浮標』『マクベス』に出演。



篠井英介 SASAI Eisuke

ヴォランド 他

1984 年、「花組芝居」に参加し、90 年に退団。1992 年、第 29 回ゴールデンアロー賞演劇新人賞受賞。2014 年、石川県観光大使に任命。23 年、『人魂を届けに』『眠くなっちゃった』での演技により、第 58 回紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。これまでの出演に映画『おーい、応為』、ドラマ『SHOGUN 将軍』などがある。

【主な舞台】『リチャード三世』『欲望という名の電車』『BugParade』『応天の門』『インヘリタンス-継承-』『眠くなっちゃった』『人魂を届けに』『アユタヤの墮天使』『夜の蝶』『Vamp Bamboo Burn～ヴァン・バン・バーン～』『ダブリンの鐘つきカビ人間』『きりきり舞い』『世迷言』『サド侯爵夫人』など。新国立劇場では『天守物語』『なよたけ』に出演。

公演概要

令和8年度(第81回)文化庁芸術祭主催公演・昭和100年記念公演
新国立劇場 2026/2027 シーズン 演劇『巨匠とマルガリータ』



【公演日程】2026年11月7日[土]～23日[月・祝]

【会場】新国立劇場 中劇場

【原作】ミハイル・ブルガーコフ 【翻案】エドワード・ケンブ 【翻訳】小田島創志 【演出】上村聡史

【美術】乗峯雅寛 【映像】栗山聡之 【照明】佐藤 啓 【音楽】国広和毅 【音響】加藤 温

【衣裳】前田文子 【ヘアメイク】川端富生 【振付】山田うん 【演出助手】西 祐子 【舞台監督】齋藤英明、濱野貴彦

【出演】成河、花乃まりあ、松島庄汰、菅原永二／明星真由美、小松利昌、富山えり子、内田健介、山本圭祐、山森大輔、柴 一平、采澤靖起、近藤 隼、猪俣三四郎、篠原初実、笹原翔太／大鷹明良、篠井英介

【芸術監督】上村聡史 【主催】文化庁／新国立劇場

【一般発売日】2026年9月13日(日)10:00～

【チケット料金】S席 11,000円／A席 7,700円／B席4,400円／Z席(当日)1,980円

【公式ウェブサイト】<https://www.nntt.jac.go.jp/play/the-master-and-margarita/>



ご観劇前にご確認ください

本作に含まれる表現については、
ウェブサイトの記載をご確認ください。

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

* **Z席1,980円** Z席は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブンイレブンの端末操作により全席先着販売いたします。
先着販売後、残席がある場合は、公演当日朝11:00からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。

* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約可。

* **各種割引** 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障がい者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(小中学生20%)、アトレ会員割引(5～10%)など各種の割引サービスをご用意しています。

「シアターデイ」第一弾実施公演

上村聡史演劇芸術監督の発案により、2026/2027 シーズンより、公演日・枚数限定で20歳以下の方を無料で演劇公演にご招待する「シアターデイ」を新たに始動いたします。本公演がその第一弾となります。

お申し込み方法・詳細は、新国立劇場ウェブサイトをご覧ください。

対象日程	①11月12日(木)18:00 公演 ②11月14日(土)13:00 公演
受付期間	9月13日(日)10:00～追加受付中 ※枚数限定、先着順
対象年齢	小学生～20歳
対象席種	S席

・お子さまがお一人で公演を鑑賞することが難しい場合、保護者の方との同伴来場を推奨しております。

お子さまとの隣席でご購入いただくことが可能です。(保護者の方のチケットは有料となります。)

・「シアターデイ」のお申し込みには無料メールマガジン「新国メンバーズ」へのご登録が必要です。

・無料招待はご観劇当日に20歳以下の方が対象です。

・席種の選択はできません。

目や耳に障がいのあるお客様への観劇サポート

本公演では視覚・聴覚に障がいのあるお客さまへ、観劇サポートをご提供いたします。
※サポートは無料。要予約、定員あり。

2026年9月13日(日)10:00より予約開始

目に障がいのあるお客様への 開演前舞台説明会 & リアルタイム音声ガイド	① 11月18日(水)	13:00開演
	② 11月21日(土)	13:00開演
耳に障がいのあるお客様への ポータブル字幕機の貸し出し	① 11月19日(木)	18:00開演
	② 11月22日(日)	13:00開演



劇場前の表示



受付には、手話通訳者と要約筆記者も



開演前舞台説明会の様子



舞台模型に触って、形状を体感している様子